

大分県立竹田高等学校

関東同窓会 第18回総会・懇親会

とき 平成16年6月12日(土)

ところ ホテルセンチュリーハイアット

当番幹事 山本 みどり (昭48年卒)



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第28号

発行者・会長 佐藤映之
編集者・委員長 佐藤毅士
発行所・関東同窓会事務局
〒248-0025 神奈川県鎌倉市
七里ガ浜東 2-37-6
電話 0467-31-5715
FAX 0467-31-5715

印刷・佐伯印刷(株)

●平成十六年度

総会報告

6月12日に第18回関東同窓会が例年通り、センチュリーハイアット東京で盛大に開催された。

前日の台風5号襲来で心配された出足も開催時刻の正午が近づくにつれ順調に伸び、約200名の参加があった。

まず総会の部では用正幹事長の開会の言葉に続き佐藤会長挨拶の後、後藤宗昭竹田高校同窓会会長が「竹田高校は3年後には開校110周年を迎えます。『自立自尊、進取研鑽、和衷協同』の校訓の如く、文武両道、地域に開かれた学校を目指し、21世紀に羽ばた

く子供たちを育てて欲しい」と挨拶。その後、会務・会計報告、監査報告。そして来賓挨拶では渡部郁之助現校長が「学校3役が揃って竹田高校の同窓生というのは全国的にも非常に珍しい。それだけに私達の思い入れは強いものがある」と話し、「今、教育界は大変な時代。そんな時だからこそ魅力のある学校づくりが要求される。虫の目と鳥の目をもち、グローバルな考えでローカルに行動する子供たちを育てたい」と熱く語った。また同窓会が資金援助をする「海外派遣事業」(毎年オーストラリアやニュージーランドへ2年生を派遣)も今年で7年目を迎え「これも同窓会事業の賜物です」と感謝の報告があった。

続いて今回出席者の最年長者である石原田鶴子(稲葉会会長)さんが乾杯の音頭をとり懇親会が始まった。石原さんはご主人も竹田の出身で昭和18年の結婚以来、関東での生活が続くが、竹田への思いは断ちがたく「今でも本籍は竹田なのよ」と笑っていた。

その後会食・歓談の進む中、始まった今回のお楽しみアトラクションは竹田高校昭和55年の卒業生でプロのソプラノ歌手・西みほさんのミニコンサート。アベマリア、浜辺の歌、マイフェアレディ、そして花、会の中盤では荒城の月などが披露された。やがてテーブルのあちこちで唱和となり、続く校歌斉唱、ストームで最高潮に。会場は竹田カラー一色となった。

速く故郷を離れ50年、60年……たとえ関東の地に根を下ろし人生を終えようとも、その人格形成・アイデンティティの原点ともいえる竹田高校での学園生活はそれぞれの心に深く刻み込まれているようだ。

総会と懇親会のご案内
乞ひご期待!

第十九回

関東同窓会

日時

平成十七年七月十六日(土)

受付 AM十一時開始

場所

ホテルセンチュリーハイアット

(桃山の間)

●総会
●懇親会

当番幹事

第十六期(昭39年卒)

第二十六期(昭49年卒)

一、総会

・会務会計報告

・監査報告

・新年度の方針他

二、懇親会

当番幹事さん企画による

余興他。

尚、会場は学年別に椅子

席を準備。先輩後輩の交

流にご期待下さい。

企画委員長

桑島輝茂



後藤新本部同窓会長の挨拶



佐藤会長の挨拶

フォトで綴る!!
第18回総会懇親会風景



ご来賓母校渡部校長先生の挨拶

プログラム
12時00分～15時00分
(受付開始 11時00分)

【総会の部】

- 1、開会のことば
- 2、会長あいさつ
- 3、会務・会計報告
- 4、監査報告
- 5、来賓あいさつ

【懇親会の部】

- 1、乾杯
- 2、会食・歓談
- 3、アトラクション
- 4、当番幹事引継ぎ
- 5、「校歌」斉唱
- 6、閉会のことば

大分県立竹田高等学校 第18回関東同窓会総会・懇親会



堤大分県東京事務所長他ご来賓・東京・大分高友会の皆々様。



インフォメーション
コーナー

●今年度総会
「西みほ」さんの
ゲスト出演
(竹高 昭55年卒)



ソプラノ、
ヴォーカル



青春の歌声
全員で校歌斉唱



大盛会の懇談会風景



平成十六年度総会報告と 平成十五年度会務・会計報告

佐藤映之会長

あいさつ

皆さまこんにちは。本日は週末で何かと多用中のところ多数ご参加いただきまして誠に有難うございます。会員の皆様には常日頃、同窓会の運営にあたり格別のご支援ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。本席は母校より渡部郁之助校長、後藤孝太郎教頭先生、並びに後藤宗昭本校同窓会長が公務ご繁忙の折、遠路ご足労賜わり厚く御礼を申し上げます。校長、教頭、両先生は竹田高校同窓で大変身近な先生でございます。校長先生には後程、母校の近況等、スピーチしていただくことになっております。又地元からは堤大分県東京事務所長、岸川東京高友会長、大分上野ヶ丘、大分工業、三重、三重農、各校の幹事長のご臨席を賜わり、二百有余の会員のご出席のもと、こゝに振々しく第十八回の総会、懇親会を開催出来まことは誠に同慶の極でございます。お蔭様で当会も各スタッフのご尽力と

会員の皆様の積極的ご協力を得まして年々充実して参りました。殊に毎回、年替りの当番幹事の皆さん(今年は三十八年、四十八年)の創意工夫を凝らした企画には唯々、感謝でございます。今年には新たにインフォメーションコーナーの設置や、案内状に料理メニューを添える等きめ細やかに配慮、そしてイベントには同窓生で名古屋在住の歌手、西みほさんの高尚な歌声で和やかな雰囲気演出するようでございます。一年間にわたり企画運営の労を執つて下さいました当番幹事の皆さんに敬意を表します。我が竹田高校同窓会の運営の実態は在京他校同窓会の皆さんからも高い評価をいただいているところでございます。私共、運営を預かる者と致しましては常に初心を忘れず母校の発展に些かなりとも役立つ方途を模索しつ、会員相互の友和拡大を念じて参る所存であります。会員の皆様には変らぬご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。本日は限られた時間ではございますがごゆるりとしご歓談いただきます様お願い致しましてご挨拶に代えます。

平成十五年度

会務・会計報告

(1) 会務報告

- 平成十五年四月十八日(金) 幹事会 於 学士会館 出席三二名
 - ・役員改選について 出席三二名
 - ・第17回総会・懇親会運営内容再確認
 - ・第17回総会・懇親会経費予算について
 - ・平成14年度収支状況説明
 - ・維持会員及維持会費状況説明
 - ・名簿改正版の配布について
- 平成十五年六月二十一日(土) 第17回総会・懇親会 於 椿山荘 出席二二三名
 - ・当番幹事 S37年卒 S47年卒が担当
 - ・開会、会長挨拶、会務・会計報告、監査報告
- 平成十五年八月一日(金) 総会・懇親会の反省会兼慰労会 於 主婦会館 プラザエフ
 - ・第17回総会・懇親会の総括
- 平成十五年九月十九日(金) 役員会 於 学士会館
 - ・定例幹事会日程、議題について
- 平成十五年十月二十二日(水) 幹事会 於 学士会館
 - ・第17回総会・懇親会の会計報告
 - ・維持会員状況報告
 - ・第18回総会・懇親会に向けての日程等確認
 - ・関東同窓会会員住所不明者数の報告
- 平成十六年二月六日(金) 役員会 於 学士会館
 - ・定例幹事会の日程、議題について
- 平成十六年三月二十六日(金) 幹事会 於 学士会館
 - ・第18回総会・懇親会運営内容再確認
 - ・総会・懇親会経費予算について
 - ・維持会員及維持会費状況説明
 - ・平成十五年度、収支状況(概算)説明
 - ・各委員会よりの報告

(2) 会計報告 (表参照)

会計報告は平成十六年四月五日に坂本勇監事が監査を実施し、適正かつ正確である旨の報告があり、総会において承認可決されました。

会計報告

収支計算報告書

(平15.4.1から平16.3.31まで)

1. 収入			
①	維持会費	1,935,470円	
②	総務費	1,608,000円	
③	総務費	130,000円	
④	賛助広告	30,000円	
⑤	名簿作成	4,000円	
⑥	受取利息	10円	
	計	3,707,480円	
	前期繰越	1,928,310円	
	合計	5,635,790円	
2. 支出			
①	総務費	2,021,147円	
②	会報費	603,029円	
③	名簿費	25,606円	
④	会務費	656,762円	
⑤	事務通信	82,088円	
⑥	会慶費	63,192円	
	計	3,451,824円	
	次期繰越	2,183,966円	
	合計	5,635,790円	

3. 次期繰越の内訳			
①	現金	0円	
②	預金	2,183,966円	
	計	2,183,966円	

上記の通り報告します。

平成16年4月5日
幹事長 用正 靖彦

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成16年4月12日

監事 坂本 勇暢
監事 本藤 敏

維持会費の納入者の現況

●維持会費のご負担のお礼とお願い

*関東同窓会は、ご承知のとおり、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力で支えられて、同窓会の運営が安定的なありゆきを続けております。
*未済となっておられる方々には、何かと出費が多端の折かとも思いますが、ご負担についてのご協力方よろしくお願い申し上げます。

●平成15年度年会費納入者芳名簿

(平成15・4・11、16・3・31)「総務委員会」
お名前もれがありましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。
TEL 0467(31)5715 FAX 0467(31)5715

「旧制中学の部」

- 昭和4年度 中川清次
昭和6年度 山口立
昭和8年度 高宮昇
昭和11年度 田部健、武藤省三
昭和12年度 宇野友郎
昭和15年度 荒牧治、須藤勲二、小野昌宏
昭和18年度 森一郎
昭和19年度 服部舜次、後藤忠士
昭和20年度 足立五郎、伊東七五三、堀健一、渡辺龍雄、大塚達夫、吉良禮三、得丸大典、那須隆澄、前田健、堀修一朗、小野薫

「新制高校の部」

- 昭和17年度 脇木安子
昭和20年度 寺田タツ
昭和21年度 得丸サヨ、中尾照代
昭和24年度 安藤俊哉、新名義晴、三宅英一
昭和25年度 本田仁夫、山辺博治
昭和26年度 阿南雅正、飯倉一郎、伊藤瑛介、今永博彬、大崎貞雄、神田清、吉良欣一、佐藤収、里見菊雄、志生野温夫、高松悌子、都築義範、長吉泉、濱口鈴子、安藤哲、大坪孝子、高山茂美、飯倉成憲、後藤光夫、工藤勲吉、阿南淑子、甲斐智津子、金子一也、上村マサ子、高須敏士、工藤謙知、得丸正哉、津田美枝、後藤利治、鎌田昭子、伊野弘子、衛藤太平洋、河野和彦、篠島資裕、河野元義、坂本勇、佐藤映之、中村シゲ子、堀利亘、益永三生、古謝正祐、堀博、麻生巖、佐藤毅士

「旧制高女の部」

- 昭和8年度 久保タケ、三宮静子、野口初子、小西ハル
昭和9年度 阿南幸子、内山俱子
昭和11年度 飛田芳子
昭和13年度 石井シズエ、倉田敏子、三代照子
昭和14年度 石原田鶴子、小倉セツ
昭和15年度 植山素子
昭和16年度 広瀬夢子

昭和29年度

- 西美智子、工藤裕一、包坂謙二郎、棚橋育子、中島文久、大沢智子、吉澤順子、矢口知子、工藤敏暢、小坂悌三、下川正見、田北元良、林盛生、平本照磨、深田登子、八木国皓、山口雄三、吉川隆治、久保博紀、得丸郁子、小島妙子、山田百子、秋元幹夫、小代孝、堀光宏、松岡靖雄、足達亥純、松澤立雄、鈴木昌子、後藤忠臣、菅章江

昭和30年度

- 阿南忠義、大塚隆右、川合文彦、佐藤清八、西誠、室慎一、盛哲男、用正靖彦、西山尚子、森勝幸、真田はつみ、丸山郁代、佐藤輝男、齊藤昭義、足立良一、葛生良子、吉川恵啓、平田豊年、原田謙一、堀光貞枝、上田武男、阿南一成、内田豪、佐藤順之助、生野勝、河野昭夫、田爪喜三、金山豊美、中村和子、高橋房枝、井英治

昭和31年度

- 阿南暉、小代邦弘、生野良友、高橋誠、辻亨、利根範子、山口靖之、藤原保範、佐藤充子、三浦弘子、松原邦夫、大崎敏夫、大岩泰、鈴木八千代、岡部由子、匂坂慎輔、吉野次彦、塔尾恵美子、佐藤絃一郎、立川美知、牧壮亮、長田美貴子、加藤興秀、近藤吉明、小代基秀、山下忠男、土屋健児、本田孝和、酒井速可、水野紀代子、後藤大林、阿南洋子、山本榮子

昭和32年度

- 阿南暉、小代邦弘、生野良友、高橋誠、辻亨、利根範子、山口靖之、藤原保範、佐藤充子、三浦弘子、松原邦夫、大崎敏夫、大岩泰、鈴木八千代、岡部由子、匂坂慎輔、吉野次彦、塔尾恵美子、佐藤絃一郎、立川美知、牧壮亮、長田美貴子、加藤興秀、近藤吉明、小代基秀、山下忠男、土屋健児、本田孝和、酒井速可、水野紀代子、後藤大林、阿南洋子、山本榮子

昭和33年度

- 津下渥子、和田剛、菅紀代巳、小澤康三、土屋ヨシエ、工藤雄司、武内英則、服部恭一、吉崎祥子、齊藤英昭、市村真一、根本英子、後藤恒嘉

昭和34年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和35年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和36年度

- 鍵小野章、松本雅愛、木村正毅、田北喜代子、萩原忠、大岡房子、山崎一守、三枝琉美子、佐々田ヤエ子、堀五三、白杵鞆彦、徳丸和子、桃溪謙太郎、朝見隆子、木内千草、阿南博利、古庄正欣、佐藤勝子、古庄正淑、安藤俊和、落合淑、江口久枝、工藤忠俊、岸野聰賢、大塚泰子、小代登喜子、御香幸吉

昭和37年度

- 徳丸和子、朝見隆子、阿南博利、佐藤勝子、安藤俊和、江口久枝、岸野聰賢、小代登喜子、御香幸吉、緒方信義、熊谷克直、田北則夫、古川勝俊、高辻紀代、古庄史郎、中野裕子、梶原克之、平野康子、堀友朗、後藤宏、角田寛、吉岡龍雄、安藤紀

昭和38年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和39年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和40年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和41年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和42年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和43年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和44年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和45年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和46年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和47年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和48年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和49年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和50年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和51年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和52年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和53年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和54年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和55年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和56年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和57年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和58年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和59年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和60年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

昭和61年度

- 高辻保之、津田紀子、麻生三郎、大塚恵士、続幸二郎、兼島政治、加治久継、小代文喜、平手肇、用正シキコ、宗像鹿子、酒井俊治、工藤信子、衛藤俊司、川合達徳、梅田芳江、小野悌次郎、原孝、板倉靖

以上346名の皆様より維持会費の納入をいただきました。ご支援いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

要追加リスト
平成十六年会計年度
(27) 後藤浩一 進行中に十五年
(48) 北島知恵 分の納付があった。
以上により納入者総数は348名となります。

会員特別寄稿

「武道功労章受賞に際して」

阿南 惟正

元新日鉄副社長
(昭26年卒)
現同社顧問



全日本実業柔道連盟理事長

年から全日本実業柔道連盟副会長兼理事長として、実業柔道の発展に尽力、今日の隆盛を招いたと云うものであります。

私は、小学校三年の時、父のすすめで、武蔵野市の鈴木道場に入門しましたが、終戦後、竹田で通った中学、高校時代は、GHQの指令で学校柔道が禁止され、練習する機会がありませんでした。竹田高校の道場は、大学入学後、同期の井田君達と練習した思い出があるだけです。

高校卒業後、一年浪人した間、再び鈴木道場に通い、昭和二十七年東大に入り、前年復活したばかりの柔道部に入部し、清水正一先生の指導を受けました。社会人として出発した八幡製鉄は、スポーツ全般が盛んで、柔道部も九州各地の高校の猛者がそろっていました。

ブラジルのウジミナスに派遣されたのは昭和三十六年で、日本から最も遠い国に製鉄所を建設すると云う気宇壮大な事業に

本年一月、武道功労章受賞の栄に浴しました。この賞は、毎年日本武道協議会から、武道の新興に寄与し、顕著な成果をあげた個人及び団体に對し、顕彰する制度であります。剣道、弓道、空手、なぎなた等十種目各一人と云う事ですが、私は柔道の部で表彰を受けました。

表彰理由は、新日鉄社員として、ブラジル赴任中、柔道部を創設し、現地従業員や子弟を指導、帰国後は、八幡製鉄所、新日鉄本社の柔道部長として後進を指導、名選手を輩出、平成五



クラブ会長と共に
平成14年
ウジミナス道場にて

参列できると云うので、勇躍現地に向いました。此所に柔道部を創ったのは、日本からの派遣者子弟の教育が動機でしたが、次第にブラジル人の子供や大人も集まり、三年を経て私が帰国する頃は、百人を越す部となりました。初めの一年は道場が無く、青天井の下、オガ屑を盛ってその上にシートをかけ、俄かづくりの道場で稽古しました。

私の帰国後、十年くらいして、「操業が安定したウジミナスの社長から、日本の技術は学んだが、もっと精神的なものも



平成7年「新日鉄優勝」
第45回全日本実業柔道団体対抗大会

の後をついで、副会長兼理事長に就任してからであります。

実柔連は、アテネオリンピックに、十一人の選手を送り出しました。アテネでの成果は御承知の通りであります。しつかりと組み、一本を狙うと云う正々堂々たる戦いぶり、日本柔道の神髄を世界に示してくれました。実柔連の学びたいと云う要請があり、七人のコーチを十数年にわたり派遣しました。道場も五百畳になり、一時は千人を越す柔道部に育ちました。加えて、ブラジルの指導者とも親しく交流し、日伯親善の実をあげたと思っております。

全日本実業柔道連盟との関係は、平成五年、神水昭夫氏が急逝したので、その後をついで、副会長兼理事長に就任してからであります。

目標は、これら頂点に立つ選手の育成と、それを支える基盤としての底辺の拡大であります。企業の側には、高校、大学で柔道に打ちこんで来た若者たちに、卒業後も伸び伸びと柔道に取り組んで行く場を提供する役割があります。仕事をもちつつ柔道を続ける事は、きわめて厳しいのですが、その厳しさを乗り越えて、はじめて社会人としての大成が期待されます。

今日、日本柔道は、将来の発展を図るべく、その正しいあり方を、原点に立ち帰って、考えるべき時に来ています。私も、この受賞に至るまで、私を導き、支えて下さった方の御厚誼に報いるためにも、一層の努力をしたい、と考えている所でありませ

の選手を送り出しました。アテネでの成果は御承知の通りであります。しつかりと組み、一本を狙うと云う正々堂々たる戦いぶり、日本柔道の神髄を世界に示してくれました。実柔連の

The Asahi Shimbun

東京五輪以降の日本の獲得メダル数

年	大会	種目数	総数	(●数字はメダル争い順位)	順位
64	東京	163	29	金16 銀5 銅8	③
68	メキシコ	172	25	11 7 7	③
72	ミュンヘン	195	29	13 8 8	⑤
76	モントリオール	198	25	9 6 10	⑤
84	ロサンゼルス	221	32	10 8 14	⑦
88	ソウル	237	14	4 3 7	⑭
92	バルセロナ	257	22	3 8 11	⑰
96	アトランタ	271	14	3 6 5	⑳
00	シドニー	300	18	5 8 5	⑮
04	アテネ	301	37	16 9 12	⑤

(メダル争い順位は金メダル数比較、同数の場合は銀メダル数)

アテネ五輪の成果
(柔道は史上最多8個の金メダルを獲得)

以上

新同窓会長

いあいさつ



同窓会長
後藤 宗昭

竹田高等学校 関東同窓会会員に エールを

稲葉の清流を子守唄に、あかつき早く臥牛城頭から船出した竹高健児(旧制竹中・旧制竹高女を含む)の皆さん、「ボーイズ・ビー・アンビシャス」各地で活躍のことと存じます。

本年六月新宿・「ホテルセンチュリーハイアット」での「関東同窓会」では、佐藤会長を、中心に三八年卒・四八年卒当番幹事クラスのユニークなご挨拶の中で、皆様のご歓待を頂き、厚くお礼申し上げます。

図らずもこの度、大分県立「竹田高等学校同窓会会長」の大役をおおせつかりました。

前任者同様にご支援をお願い申し上げます。本校同窓会では、早速、役員会を開き、

①副会長を選出、
②同窓会より、オーストラリアに生徒十名・引率の先生二名計

十二名を研修派遣しました。生徒会員から、「同窓会の皆さんにお礼の便り」を頂いています。

③三年後の竹田高校一〇周年をどうするか、実行委員会の設置を予定しています。

アイディア・ご意見などお寄せください。

④平成十六年八月十四日、竹田高等学校昭和四十九年卒のクラス会が地元竹田市「ホテル岩城屋」で開かれ「よく集まるクラス」と「合言葉」に母校訪問と

思い出深いエールの交換が行われました。

⑤会員里見菊雄日本バーカライジング社長さんは里見奨学会を通じて後輩の育成に貢献・幾多有為の人材が輩出しています。深く敬意を表します。

⑥「廣瀬武夫百年忌祭ならびに戦没者慰霊祭」は日本繁栄の犠牲となった英霊に感謝し、平和への祈りを込めて取り組みました。全国各地から奉賛賜わりましたが、同窓会ご有志のご協力も頂き、有難うございました。

「五十年小変・五百年大変」

は、熊沢蕃山先生の歴史観であります。中川三代「久清公」は「熊沢蕃山」を招き藩政の大改革を行なっています。

昭和の大合併後五十年小変・平成の大合併が進んでいます。ふるさとの発展を望まない人はいないでしょう・・・

「知恵のある人は知恵を、力のある人は力を、サムマナーでも結構です。」

みんなでふるさとを、そして、母校を見守っていきましょう。

蕃山は陽明学派で「知行合一」(あごだけでなく実行を)「知良知・ちりょうち」(人間生まれながら良い心・良知・を持つてい

る。欲に邪魔されて悪いことをして身をあやまる人が多い。己の欲するように行動しても矩を超えないようにしたい)

内政面で、抵抗勢力と和解、外政では祖国の防衛を論じ、産業振興では、新田開発、岡藩七万石が九万石になったと云われています。

蕃山の考えは以来岡藩の士風となつていきます。

昨年の四月着任の渡部郁之助竹田高等学校校長は基本理念に「文武両道」を掲げ、「地域と共に開かれた学校づくり」に取り組んでいます。

母校の発展に協力し、会員・皆様に「激励のエール」を贈りご挨拶と致します。

平成十六年(二〇〇四)年九月

会長・後藤 宗昭

副会長・渡部郁之助

佐久間満枝

姫野 勝俊

後藤 真志

林 勝俊

小倉 英司

堀 幸子

他役員一同

燃える!!

クラス会

古希を迎えた

二八会一八〇名

久住に集う!!

私達昭和二十八年卒の二八会古希記念大会が「友よノいつまでも」と題して地元竹田地区の朋友の世話で、あの美しく雄大な久住高原で開催されました。

そこに何と元気な友の顔が一八〇、写真撮影も大変、宴会場も一杯、過去最高の参加人数のことだけでも素晴らしい、七〇の歳を忘れさせる楽しい集いでした。

会は小河シズ子さんの司会で物故者への黙祷が始まり、末広平八実行委員長の歓迎のあいさつの後、各地区の近況報告等のセレモニーがあった。宴は男性三名による式三番に始まり、アメリカから遙々参加の工藤君発声での乾杯、末吉君(北九州市市長)安部さん(福岡地区)麻生君(竹田地区)の記念スピーチ、舞踊・カラオケ等々、最後は校歌の大合唱、万歳・万歳とますます盛り上がる大会でした。又、この機会に古希記念作品展が竹田歴史資料館市民ギャラリー「水琴館」で開催され、全

国から工芸、絵画、写真、書などの力作四十二点が展示され、注目を集めていた。

私達二八会の全国大会は三十三周年記念大会から今回まで、サブタイトルに「友よ」・「友よ忘れない」・「友よノいつまでも」等友への思いの素晴らしさを原点に、八回の大会を重ねております。

さて今回は二年後東京二八会が幹事で開くことが決まりました。

「友よノ次回も元気で東京で会いましょう」
互いの健康を願いながらの別れでした。
(麻生 巖・昭28年卒学年幹事)



ふるさと名所紀行

～国宝 富貴寺～



宝形造りの屋根の一部



石段上の仁王門



国宝富貴寺大堂

佐藤 毅士 (昭28年卒)

今回は大分県内に三件しかない国宝の一つ国東半島の富貴寺を紹介したい。

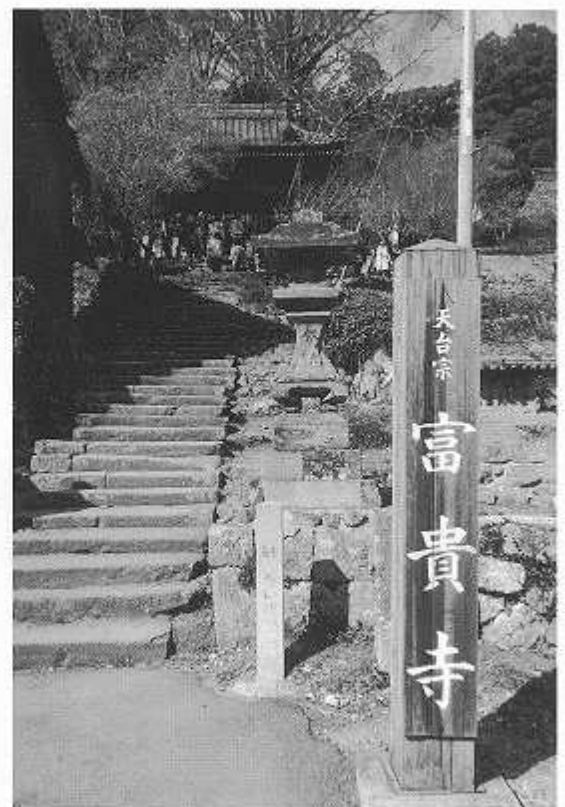
所在地 豊後高田市大字落二九九五、TEL〇九七九―二六―三二八九

国東半島はそのつけ根に当るところをJR日豊線が通っているだけで鉄道のない不便な土地である。従ってそこへの旅程は、バスか車を利用するしかない。宇佐駅か、豊後高田市のバスターミナルが基地となる。又これらとは別に大分駅前発で定期観光バスもある。「豊後国風土記」によれば、この地は両子山(フタゴヤマ)を中心に、二十八谷と呼ばれる多くの谷があり、この深い谷間の山に平安時代の古寺が無数に建

っていた。人々はこの寺々を六郷満山と呼んできた。ちなみに六郷とは来繩、田染、安岐、武蔵、国東、伊美のことである。この自然環境は静かな田園風景のなかにあり修験者の立現れそうな山岳ではなく、どこか古都の面影を漂わせる村里である。富貴寺はバスを降りると、もうそこが登り口になっていて、そのまま石段を登っていけばすぐに大堂にたどり着いてしまう。石段の中ほどにある仁王門は人を威圧するようなものではなく、むしろどこにでもある山寺の風情だ。門の両側に安置されている石仏仁王像も一見の価値がある。

富貴寺は、六郷満山最大の寺西叡山高山寺の末寺で通称「落の寺」とも呼ばれている。天台宗に属するが、長くただ静謐の念仏道場であった。平安時代の

阿弥陀信仰のもと盛んに造られた阿弥陀堂の代表的なもので、平等院鳳凰堂、中尊寺の金色堂と並び称されている。屋根の頂、ただ一点の隅屋根から四方に流れる宝形造りの屋根は大きく安定感のある優美な姿を見せている。堂の外側では正面左手の土手に沿って立つ石塔類がある。五輪塔、二基の笠塔婆、宝篋印塔のほか苔むした脱衣婆などの石仏が大堂を見守っているようだ。堂の前には銀杏の大木があり、秋の境内を金色の落葉でうずめてしまう。又右手には早春の大堂を香り染める梅林が続いている。



富貴寺全景

平安時代の仏教文化をあますところなく伝えていく富貴寺は千年の歴史の重みを訪れる人達に与えている。私たちはここを訪れることで「ふるさと」の良さを再発見することだろう。

掲示板

●平成十六年春の叙勲
瑞宝単光章

後藤 忠士

(昭19年卒)

ご経歴

警視庁退官後は、警備業界に入り、昭和六十一年十一月から東宝総合警備保障の取締役相談役。

同窓生一同、心からお祝いお慶びを申し上げます。

未来の素材に、



日本パーカライジング株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1 TEL. (03)3278-4357

訃報

慎んでお知らせ申し上げます、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

後藤 宗一様 (昭22年卒)
平成15年7月31日 没

後藤 次士様 (昭14年卒)
平成15年11月18日 没

茅野 為蔵様 (昭13年卒)
平成15年11月29日 没

太田 浩子様 (昭40年卒)
平成15年12月19日 没

堀 尚志様 (昭23年卒)
平成16年1月23日 没

高橋 弘司様 (昭49年卒)
平成16年2月10日 没

岡野 久子様 (昭10年卒)
平成16年3月2日 没

飯尾 憲士様 (昭19年卒)
平成16年7月26日 没

大楠 英子様 (昭27年卒)
平成16年8月18日 没

※何らかの方法により、事務局へ連絡を頂いた方々を掲載しております。

会員の皆様へ
お知らせ!!

◎竹田会開催のご案内

日時

平成16年11月5日(金) 予定
PM 6時〜

場所

中野サンプラザ10F
芙蓉の間

会員の一言

我が子への期待

井 勝馬
(昭63年卒)

私こと長女・星羅(せいら) (二〇〇四年七月一日生)が、十一月公開の映画「海猫」に新生児役として出演します。ご覧載ければ幸いです。

監督・森田芳光

出演・伊東美咲、仲村トオル、三田佳子、佐藤浩市

詩歌・文芸

用作公園

石原田鶴子
(昭14年卒)

半世紀振りに訪ねし公園は静寂の中緑の気満つ

藩公の別邸ありし公園の池畔にあ、うんの狛犬の坐す

狛犬の傍への台座に記したる漢字の碑文読みたきものを

狛犬の坐れど宮居跡もなく今はむなしく何を護るや

七十年の昔遠足に来し時に取りし夢の実はいづこそ

☆ ☆



あとがき

●広報委員会では幹事会と計り今年度中に「ホームページ」を立上げるべく鋭意検討中です。

●お詫び

前回の会報クラス会の稿で誤記がありましたので訂正致します。昭和三十年卒の会名を「七耀会」としましたが「七耀会」の校正ミスでした。

※「投稿をお待ちしています。」

若い世代の皆様への「クラス会情報」や「特別寄稿」等々、ご投稿を特に期待しております。

委員一同

・投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

・連絡先

〒302-0034
茨城県取手市戸頭七丁目
七二二-二〇二
佐藤 毅士 宛
(広報委員長)
TEL 0297-78-7774
FAX 0297-78-7774